

**Q：一日の気温の変化についての測定結果が教科書通りになりません。
どうしたらよいでしょうか。【4年】**

A：気温の変化をはじめとする気象現象は、とても複雑です。教科書通りにならないことも不思議ではありません。

○教科書通りにならない理由

教科書には、「晴れた日」の気温の様子が書かれています。これはあくまでも、他の気象要素が安定した、穏やかな晴れた日の典型的な温度変化を示した例です。しかし、実際には、太陽から受ける熱の量やそれ以外の条件は刻一刻と変化しているのが普通です。例えば、一時的に雲が出たり、突然冷たい風が吹いたり、地面を覆っている大気が気づかないうちにゆっくりと入れ替わってしまうこともあります。ですから、測定結果が教科書通りにならないのは不思議なことではありません。

○考え方

実際に観測を行う際は、児童が理解しやすいように、事前に天気予報で確認するなどして天気が安定している日を選ぶようにしましょう。それでも教科書通りにならなかった場合には失敗とは考えずに、教科書どおりにならなかった理由を考えてみましょう。また測定するときに、同時にそのときの状況（雲の量や、風の向き、強さ等）を記録しておくようにしましょう。そうすると、なぜ気温が急に下がったのか等の理由がわかるかもしれません。また、1回（1日）だけ測定するのではなく、継続的に測定することで、教科書に近いデータが測定される日が見つかるかもしれません。

アドバイス：

「天気の様子」の單元では、気温の測り方やグラフの書き方を身につけることや、結果から天気と気温の関係について考えることが重要です。測定結果が教科書通りにならないことにこだわっていると、本来の目的があいまいになってしまいます。

【参考HP】気象統計情報－最新の気象データ（気象庁）

<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/index.html>